

平成 30 年 10 月 12 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370904

研究課題名(和文) 骨病変から考察する先史時代の社会・生活様相について

研究課題名(英文) social and life condition of prehistory from paleopathological evidence

研究代表者

谷畑 美帆 (Tanihata, Miho)

明治大学・研究・知財戦略機構・客員研究員

研究者番号：10440174

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：古墳出土する人骨は総じて遺存状態が不良であり、基本的な考察を実施することが難しい。そのため古病理学的所見に関する考察を実施も難しく、中でも複数の個体が一つの埋葬施設に納められている場合、個体識別が困難となり、研究推進が難しくなっている。そのため埋葬施設内における骨片を部位同定し、その出土地点を把握しつつ、個体識別を実施し、古病理学的所見の観察を実施した。さらに南九州などにおける遺存状態が比較的良好な資料については、集団としての出現頻度を提示し、虫歯率が低く、脛骨を中心とした骨膜炎の所見が高めであることが明らかとなった。しかし本研究では古病理学的所見から階層差等を提示することはできていない。

研究成果の概要(英文)：Human bones excavated from the ancient tomb are generally poor preservation. As a result, it is also difficult to carry out consideration on paleopathological evidence during the Kofun period.

In this research, identification of the part of bones were done from fragments, individual identification was done in situ, and then examined the paleopathological evidences. And skeletal materials in southern Kyushu etc. that have relatively good preservation have low frequency of dental caries and relatively high frequency of periostitis in the shaft of tibia. Also from previous studies, hierarchical differences have been presented from the size of the mounds, etc. However, it is not possible to present hierarchical differences etc. from paleopathological evidence in ancient tombs.

研究分野：人文

キーワード：古病理 古墳 埋葬 人骨

1. 研究開始当初の背景

古墳出土人骨については、単体埋葬である前期古墳出土例を中心に考察が実施されている(清家2010)。しかし前期以降の複数埋葬個体については、時代の骨の遺存状態が不良であることなどから、十分な考察が実施されていない。そのため、本研究では、いくつかの遺跡を取り上げ、複数埋葬個体の実情を把握し、古病理学的所見に関する情報も可能な限り抽出し複複合的な考察へと展開させていった。

2. 研究の目的

前述したように前期以外では、古墳時代を出土人骨から考察するという研究は、あまり一般的なものではない。これは人骨の遺存状態にもよるが、骨片の部位同定及び出土地点の確認などといった基礎的な作業を実施することによって、被葬者である人骨と副葬品との総合的な考察を実施する。

また遺存状態の良い個体では、古病理学的所見を集団として提示し、所見を持つ個体(年齢・性別・階層等)の特性を把握することとする。

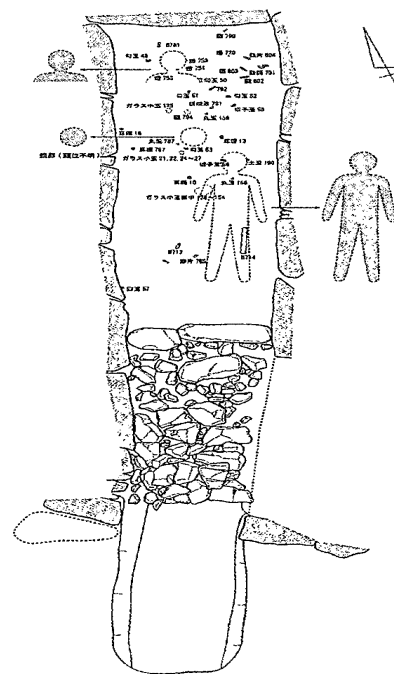
3. 研究の方法

遺存状態が不良な個体埋葬の場合(千葉県金鈴塚古墳出土例など)は、部位同定及び出土地点を把握したうえで性別・年齢・病変に関する調査を実施した。また遺存状態が良好な個体(宮崎県島内地下式横穴墓出土例など)においては、性別・年齢を把握したうえで病変調査を実施した。ここで主な観察対象とした病的所見は、眼窩上板における骨多孔性変化(クリブラ・オルビタリア)および四肢骨に観察される骨膜炎である。これらの所見が、どのような個体(性差・年齢差を把握するため)に観察されるかを調査している。

4. 研究成果

遺存状態が不良な個体の場合、同定が可能な部位は歯牙や大腿骨などが中心となっており、全身骨格のほんの一部しか確認すること

ができなかった。しかし、出土地点から埋葬人数を把握することが可能となり、副葬品との考察が可能となった。例えば、金鈴塚古墳出土例の場合、エラボレートされた馬具は比較的年齢の高い個体に伴っており、初葬とみなされ、最後に埋葬された比較的若い個体に伴う馬具は、造りがあまり凝ったものではないことが明らかとなった。また四十八塚古墳出土例においては、被葬者数及び埋葬姿勢を提示することもでき、各被葬者に伴な副葬品のバリエーションを認識することができた(図参照)。こうした場合、病的所見として得られる所見は、虫歯のみであるが、副葬品と被葬者である人骨を併せて考察することによって、被葬者を多角的にとりあげることが可能となった。



このほか遺存状態の不良な個体として法皇塚古墳出土例(千葉県)および漆山古墳出土例・神田古墳(群馬県)の観察を実施した結果、比較的年齢が高い個体(歯牙の咬耗が進んだもの)において虫歯の所見が確認されている。また歯牙以外の部位の遺存状態は総じて不良であるが、遺存している下肢骨には骨膜炎の所見(軽度)が観察されている。

遺存状態の良好な個体においては、古病理学的所見の出現頻度を提示している。その結果、眼窩上板における骨多孔性変化(クリブラ・オルビタリア)の出現頻度は島内地下式横穴墓出土例(宮崎県)では20%前後、池山洞44号墳出土例(韓国南部)では15%前後となっていた。また歯科疾患の一つである虫歯の所見も両遺跡においては出現頻度が低めであり、中でも島内地下式横穴墓出土例においては、5%未満という低い出現頻度を呈していた。しかし、骨膜炎に関しては、上肢骨及び下肢骨の骨幹の観察が可能であった島内地下式横穴墓出土例では脛骨骨幹部を中心に約40%の出現頻度(いずれも軽度)を呈していた。

このほか、本研究で観察を実施した韓国南部の資料(池山洞44号墳出土例)や法皇塚古墳出土例(千葉県)および神田古墳出土例(群馬県)においても、骨膜炎の所見を持つ個体が観察されている。このように古墳の規模の大小にかかわらず、骨膜炎の所見が観察されていることから、本所見の出現頻度に社会的階層などによる相違があるとは考えにくいと推定される。このほか、歯牙に観察されるエナメル質減形成などの観察も可能な個体において実施しているが、性差・年齢差および階層差が確認できていない。

またこれまで殉葬埋葬とされてきた池山洞44号墳出土例では、切り傷などの所見が観察されておらず、本古墳の被葬者がそれぞれ豊富な副葬品が保持していることなども相まって、この地域では中国における殉葬埋葬とは異なる様相を呈しているとみなされる。

古墳時代の社会を様々な角度から考察するためにも、骨病変を中心とした所見と考古学における基礎的な所見(墳丘・埋葬施設・副葬品など)と併せて、今後も観察所見を提示していく必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)
〔雑誌論文〕(計4件)

谷畑美帆・竹中正巳(2015)「金鈴塚古墳における被葬者について―出土歯牙を中心として―」『金鈴塚古墳研究』第3号 p28 - 29

谷畑美帆(2016)「古墳に埋葬された被葬者に関する複合的研究の提示」『駿台史学』第157巻 p69 - 86

谷畑美帆・中村享史・内山敏行(2016)「四十八塚古墳に埋葬された被葬者を考察する」『研究紀要』第24巻 p81 - 98

谷畑美帆・宮代栄一(2017)「群馬県高崎市漆山古墳出土歯牙について及びそこから推定される被葬者と時期の検討」『埼玉考古』52号 p125 - 138

〔学会発表〕(計4件)

谷畑美帆(2015)「古墳に埋葬された被葬者の検討 城山1号墳を中心に―」『日本考古学協会第79回総会』帝京大学

谷畑美帆・朴天秀・辛相伯(2016)「韓半島の殉葬埋葬による出土人骨における所見観察 池山洞44号墳出土例における古病理学的所見を中心に―」『日本考古学協会第80回総会』学芸大学

谷畑美帆・宮代栄一・米田穰・内山敏行(2016)「千葉県市川市法皇塚古墳の被葬者検討 出土人骨と遺物から―」『日本考古学協会第80回総会』学芸大学

谷畑美帆(2018)「横穴墓出土人骨における古病理学的所見」『日本考古学協会総会第81回総会』明治大学

〔図書〕(計4件)

谷畑美帆(2016)「鶴口遺跡出土人骨について」『平成26年度四街道市内遺跡文化財発掘調査報告書』公益財団法人印旛郡市文化財センター p26

谷畑美帆(2016)「宿神田地区出土人骨について」『E25 神田・三本木古墳群 平成23~25年度藤岡市宿神田土地改良事業に伴う宿神田遺跡群埋蔵文化財調査報告書』 p231 -

谷畑美帆(2017)『古墳に埋葬された被葬者像
を探る-ヒトとモノからの考察』シンポジウム
要旨集

谷畑美帆(2018)「塚穴古墳出土人骨につい
て」『志摩市発掘調査報告書』p28 - 29

6. 研究組織

(1) 研究代表者

谷畑美帆 (TANIHATA MIHO)

明治大学・研究知財戦略機構・客員研究員
研究者番号：10440174